

都知事選関連こぼれ話

JJ1SXA/池

2月9日の都知事選は、選挙戦前の下馬評通り、梶添氏に決まった、開票後わずか15分後には、当選確実が出た、当選したからにはしっかり頑張ってもらいたい。

巷では、除名したのに自民党が応援するとはおかしな話だと言う人も多かったし、婚外子を3人も抱え、養育費問題の裁判も抱えている、政党助成金の使途不明も言われていて前任の猪瀬氏の二の舞にならなければ良いがとの話もある。

原発即廃止を主張の細川・小泉の老元首相連合は沈んだが、賞味期限の切れた細川氏と問題の本質を何一つ理解せずに、政局だけに強い人物と見透かされた小泉氏では当然といえば当然か？お二方共晩節を汚す結果となったのでは？

郵政改革も道路公団改革も、本当は特別会計に流れる財政投融资と呼ばれた巨額の資金にメスを入れることだったが、道路公団は上下分離方式で真の民営化とはならなかった、危機感を抱いた塩川正十郎氏が、最終局面で小泉氏に「上下分離では改革はつぶされる」と進言したが、そのとき小泉氏は「上下分離って何だ」と尋ねたという、つまり小泉氏は問題の本質を何も理解していなかったのだ、また、女性宮家問題でも、女性宮家の創設は男系天皇の制度を崩し、女系天皇制にしてしまうとの批判に対して、小泉氏は国会でこう述べた、「愛子さまが結婚なさって男児がお生まれになり、その方が天皇になれば男系天皇ではないか」と、男系と女系も知らなかったのだ、女性天皇が女系天皇と思っていたようだ。

今回も、原発即廃止後の施策を問われて、俺が一人で答えることでは無いと平然と言っている、こんな人が応援する人が知事にならなくて良かった。

田母神氏は多くの若者達に支持されたようだ、氏の応援団は多彩だった、分けても知名度抜群の、デビ婦人と、「永遠の零」の百田尚樹氏、氏は応援演説で持論を展開、物議を醸した、いわく「東京裁判は連合国の残虐行為（無差別空襲や原爆投下）を隠すためのものだった」、「田母神氏以外の3候補（梶添・細川・宇都宮を指す）は人間のクズだ」等、過激な発言をしていた。

直後の衆院予算委員会で、民主党の有田議員が、質問で安倍総理に感想を求めたが、総理は直接聞いていないのでコメントできないと断った、また、この百田氏と長谷川三千子氏がNHKの経営委員であることで、長谷川氏が野村秋介氏の追悼文を書いたことでも追求したが、読んでいないのでコメントできないとこちらもあっさり断られた、新右翼の野村氏は、自身の「風の会」を週刊朝日で、「風の党」と揶揄されたことで朝日新聞本社に抗議に出向き、社長等と話し合いの最中拳銃自殺をした、この野村氏に対する長谷川氏の追悼文を問題視したものだ、朝日は、メディアに対するテロを賞賛する内容で許せないと言っているが、自社の筆の暴力には触れていない。

(12.Feb,2014記)